

Proxima 【PW-1000SJ 取扱説明書】 (1.8m)

本品はPW-1000Sのプラグ&コネクタをフルテックからジョデリカ製に置き換えたカスタムモデルです。一般に純銅コネクタ類は色付けの無さ、音のしなやかさが最大の特長ですがジョデリカ製品は透明感、音抜けが際だった特長があります。

ベースのPW-1000Sは同一1000(旧製品、価格¥48,300)の造りを簡略化、各素材も再検討し大幅なコストダウンに成功した製品です。PW-1000は内側のカーボン含浸導電綿シースと外装シースの二層構造でしたが、カーボン導電体は性能(導電度)管理が難しくコストアップにつながっていました。本モデルでは新開発の導電剤で外装綿自体を化学処理することで内装シースが不要になりました。同時に新処理法では導電度の微妙なコントロールが容易で音質アップにも成功し、旧製品PW-5000(6N線ポリオレフィン被覆)に迫る実力を備えています。

外装は綿(一部麻混紡)の無染色版を標準仕様と致します。(一部旧製品は薄く染色していましたが、最良の染料で極めて薄く染色しても音質劣化が認められるため、染色は基本的には廃止致しました)

次に本品は音が良く使いやすい2P構造です。3P式でアースを落としても音が良くなるとは限りません。3Pアースが繋がることで、筐体内のノイズ電流が増え、音質が悪化するケースが多く観られます。アースは筐体のどこか適当な所からワニ口コード等で壁コンターミナル(マンションではサッシュ枠のネジも可)につなげ、比較試聴することをお勧めします。

プラグの極性も決まったルールはございません。お客様の好みで方向を選択して下さい。

また、電源ケーブルは使用機器に依って、差が出やすいものと、比較的差が出にくいものがございますので、一度各機器でご確認することをお勧めいたします。(一般にパワーアンプは差が出やすいものが多いようです。ご注意!「お客様の想定外の機器に繋げてベストの結果になることもあります」)

なお天然繊維類は適度の吸湿性があり、これが音の良さの要因のひとつになっています。

このため冬場の乾燥時には少し音が悪くなる傾向があるため、外装綿に帯電防止処理を行い音の安定化を図っています。本品の処理は永続性がありますが、濡れ雑巾等での清掃は帯電防止効果が変わってしまう危険性がありますので絶対にお止めください。汚れが気になる時はブラシ等でホコリを落とす程度に抑えてください。(外装がさらに毛羽だっても全く悪影響はありません)

本品の外装は余裕を持たせた造りですが、これは各線間容量の低下と外装の影響自体を最小にする(外装の良さのみを活かす)ためですが更に別紙の「電源ケーブルの音質チューニング法」での説明のように音質の微調整が可能になりました。

〔仕様〕

◎プラグ	ジョデリカ ETP-850CU
◎コネクタ	ジョデリカ ETP-320CU
◎線材	高純度銅撚り線、無色ポリエチレン被覆 AWG 16相当
◎直流抵抗値（往復）	約 60 mΩ
◎重量	約 220 g
◎定格電流	10 A

使用上、不明な点あるいは御意見等がございましたら、下記メール等をご利用ください。

株式会社 日本オーディオ

〒111-0056 東京都台東区小島2-1-11 三源ビル801号

TEL 03-5825-4344

FAX 03-5825-4669

E-mail: nipaudio@netlaputa.ne.jp

URL: <http://nipaudio.com/>

p r t d . 2 0 1 5 / 0 8

『電源ケーブルの音質チューニング法』

弊社の電源ケーブルの外装は音質面の配慮からかなり余裕のある造りになっています。実際に同じ導電処理綿でも外装の張り方で導電性、シールド効果、ケーブル周辺の電界の様子が変わり、若干ですが音が違ってきます。

この音質変化が特に激しいのはコネクタ（機器側）近辺（30cm程）であるため例えば、図1のように外装をコネクタ側に寄せると、音はソフトな方向に変化致します。

逆に図2のように細くタイトに張ると音はシャープな方向に変化致します。

製品は均等に張った状態で出荷しておりますが、上記の方法で音質の微調整が出来ますので、是非一度お試し下さい。（図は一般的なイメージです）

